

あしふ

122号

1974・1



もくじ

【テーマ原稿】マスコミに一言

行間を読もう 高木由利子

2

【こんにちは お元気ですか】(2)

― 菊田愛子さんの巻 ― 後藤美和子

3

【社会の窓】

ソビエトの婦人労働者(1) 大城貴代子

4

私は話し方をこう生かした 吉田てる子

6

年賀状から 十日市睦子

6

私のしごと(2) 十日市睦子

7

朝日新聞の切抜きから 松原 敦子

8

はじめまして 矢崎 好子

9

和光学園の四季(3) 杉本 輝子

10

土地騒動(その4) 土井 邦子

12

病院がよい 13

【文芸】

詩 月輪の滝紀行 重川 雄

11

ある青春(24) 津堂 健治

14

【お便り】 三好美恵子

16

表紙絵の言葉 平田恵美子

13

例会のご案内 14

4

編集後記 16

16

行間を読もう

宝塚市 高木由利子

新聞ぐらい読まない世の中の動きがわからなくなる——、それに「新聞も読まない」というのは不勉強の象徴のように感じて、毎日せっせと新聞に目を通して、自分が意識的に学んだら、知ろうとしたり努力して得た知識は別として、私たちが無意識のうちに取得している物事への予備知識は、たいてい新聞などのマスコミから得た知識である事が多い。そのマスコミが一方的で片よった報道しか流さなかつたら、私たちの知識もまた、否応なく片よったものになってしまうだろう。

今問題になっている石油危機が起る以前に私が持っていたアラブとイスラエルについての知識といえば、イスラエルはキブツなど有名な建国の精神にもえる善玉の国、一方アラブは、アラアの神とかいう得体の知れぬ宗教を信じる異教徒で、ハイジャックなど恐ろしいことをするゲリラのいる悪玉の国、という程度のまことに粗末なものでしかなかった。映画「エクソダス」を観た時も、ポール・ニューマンのひきいるイスラエルの方

が、断然カッコ良かった。

アメリカがイスラエルを支援しており、アメリカ追随外交の日本は勿論イスラエル寄り、故に新聞記事もイスラエル善玉記事となり、それが読者の私の頭にいつのまにかしみこんでいたのではないだろうかと思いをもちたくなる。

昨年六月頃、後藤さんにお借りした「深沢七郎対談集」の中に、若松孝二という映画監督の話が載っていて、その人は日本ではいわゆるボルノ映画を作っているのだが、お金が少し出来ると、アラブへ出かけ、PELPという急進的なアラブゲリラの中へ入りこんで彼等の映画をとっているという話だった。その若松監督が「アラブゲリラの人たちの心は実にやさしい」と言って賞讃しているのが妙に私の心に残り、今までの先入観に大きな疑問符？が、ポトツと音をたてて落ちたのを記憶しているが、それまでだった。

ところが今度の石油危機。これは直接わが身にもふりかかる問題なので、どうしてこんなことになったのだろうと、今度はかなり能動的・意識的に色々読んで聞いたりしたら、これはどうやら今までの価値判断を変える必要があるようだ。英国の歴史学者アーノルド・トインビーも言っているらしい。「入植者は侵入者である。イスラエル人と北アイルランドのプロテスタント、それに南アフリカ連邦の白人は、現代の主たる犯罪者である」と。新聞などのマスコミは、公正中立であるポーズをとるのがうまく、公正中立だと思っている人も少くないようだが、それは、日本の高度成長が砂上の楼閣であ

あったと同じような、幻影でしかないだろう。

又、毎日の新聞記事の一つ一つ追っていると、まるで精神分裂症になってきそうである。一時はPCBで大さわぎであったが、PCBは突然日本から姿を消してしまっただろうか？ 最近Pの字も載らなくなつてしまつた。金大中事件というのも一時大にぎわひだつたようだ。石油危機も新聞だけ見ていれば、ある日突然ふつてわいたような感じである。一つ一つのあぶくのような現象を目の色かえて追いかけるが、その本質となる深い根をさぐりだそうとは決してしない。否、現象のみを次々と手をかえ品をかえ見せる事によつて、故意に本質から目をそらせようとしているようにも感じられる。だからアブナイのである。

とつて新聞は読まざるを得ないし、アブナくないように読むにはどうすれば良いか……。ここで「新聞は行間を読め」というむのたけ氏の言葉を思い返してみよう。「行間」つまり、文字と文字の間の白い空間、記事として書かれていない部分を読みとつて、その本質を洞察する力を養うことが必要なのだ。

しかしこれはなかなかむずかしい事である。ついつい大きな見出しにひかれて主眼記事のひろい読みですますなんて事も多い。そういう、ともすれば一つ一つバラバラな出来事の中に埋没してしまひ、何も見えなくなつてしまひがちな私に、明確な道すじをさしてはくしてくれているのが、むのたけ氏の発行している「ミニコミ新聞「たいまつ」」である。(「た

いまつ」とは何と象徴的な言葉であろう) 何か重大な出来事が起る毎に、「あ、たいまつ」は何と言っているだろう。

早く読みたいな」と思う。「たいまつ」は起きた出来事の評論だけでは決してない。将来の予見的な言葉が必ずあり、それが実によくあたるのが興味悪いぐらいだ。

政府は今ごろになつて食糧危機をうたえてあわてているが、むの氏は、以前から小麦や大豆のほとんどを外国の輸入にたより、休耕地を草だらけにしている失政を告発し、「今におてんとう様から手ひどいしかえしをうけるだろう」と警告し続けてきたのが、今現実のものとなつてきている。

最近の日本の物価の急騰ぶりは、敗戦後のあの混乱期にも匹敵するらしいが、普通の新聞では、石油危機による業者の買い占めや、消費者の買い溜めが原因だ位のことしか書いてないが、「たいまつ」を読むと、「程なく日本の諸物価は軒並みに五割以上あがるだろう。インフレ状態が造成されて、日本円の価値が下落する。その分だけドルの地位が回復する。要するに日本円はドルの復活待ちのオモチャにされている」と、香港の経済学者が昨年四月に語つた言葉を載せ、この混乱が、アメリカを中心とした世界の資本戦略の中で操縦されたものである事を明らかにしている。

もし私のように新聞の行間を読みとれないという悩みをお持ちの方、「たいまつ」をお読みになりませんか。

申込先 秋田県横手市鶴巻町二〇
「たいまつ新聞社」一カ年600円

菊田さんは、今は神戸の東灘区にお住いですが、以前は枚方市におられたそうで、その頃、「わいふ」の例会にも二度程出席なさったことがある方です。

小山やエ子さんは一度その折に逢ってらっしゃるのですが、私には初対面の方で、小山さんの記憶を頼りに、二人して待合せの場所に『阪急デパート』出向きました。人の少ない開店時刻を選んではいたのですが、年の瀬のせわしなさが、巨大なデパートの内外を包み始めた気配のする十二月中旬のことです。

予想が外れて、菊田さんはお一人ではなく、小さい坊やを連れてらっしゃいました。

「あら、菊田さんところ、こんな小さい人がいらっしやいましたか」

「え、まあ、そういうことなんです」とりあえず、私達が話し合う間、この坊やに退屈せず、安全に、遊んでもらわなくてはならないということになって、屋上に出ました。開店早々の屋上は森閑としていて、まるで貸し切りの様でした。坊やは早速とんで廻って元氣よく遊び始め、私達三人は、風の当たらない所にベンチをヨッコラショとひっぱっていつて、日に当り乍らのおしゃべりを始めました。



「いやあ、菊田さんのお宅に、あんな小さい坊やがいらっしやったのですか、本当に？」

と、さっきと同じ質問をくり返してしま

った。
「実は、弟のところの子供を預っているんです。弟の嫁が産後まもなく亡くなつてしましましてね。産院には一週間しかおいてくれませんでした。だから、

まだグニャグニャの新生児だったあの子を、『頼む』と、置いていつちやったんです。それからずっと今まで、四年間も経ってしまいました。」

菊田さんご自身の子供さんは、現在小学校の三年生と五年生のお二人だそうで赤チャンが連れてこられた時には、下の子供さんが幼稚園に入っていて、菊田さんにとっては、「やれやれ、さあー何か始めなければ」と、張り切っていた矢先だったわけ。

「この子のおかげで、私の生活設計もすっかり狂ってしまいましたし、家庭の中にも、それまでには見られなかった変化が起き、時としては波風がたつこともあるんですよ。平穩無事に来っていた我家の

【こんにちは。お元氣ですか】 2

菊田愛子さんの巻

中に、この子を通していろんな問題や悩みがおきて来ましてね、私も自分の身の事であるため、夫への気兼ねも感じますしね。本当に困っているんですよ。」

こうした不幸な事が突発した時、日本では、身内の者の中で何とか解決してしまおう、或は、しなくてはいけない式の考えが根強い。しかもその際、男の人の自由は損わないで済むように事が運ばれその結果、女の人の側の献身に万事を委ねてしまふ、というパターンが多い。

「でもね、私個人にとってみると、このことがあって、世の中の裏側や、人間の心の奥とか變、そんなものがよく見えるようになって来て、その点よかったと思ってるんです。こんなことでもなかった

ら、何も気づかず通りすぎてしまふ平凡な人生で終ったかもしれないところを、あれやこれやと考えたり悩んだり、それはもう本当に随分といろんな事を学びました。」

「このまま、ひきとってご自分の子供にする気持はお持ちじゃないのですか。」

「ええ、それは思いません。一日も早く、ひきとられて欲しいと思っています。これまでも何度もそのチャンスを見出しては来たのですが、その度いろんな理由でだめになり、私がかつかりのし通しです。この子にとってもね、早くちゃんとしてやらないと、幼稚園や学校が始まると困りますでしょう。弟が再婚すれば……」

と思つて、その方でも私は一人骨折つて

まとめたのですけどね、實際問題になりますとね、それもうまくはゆきませんでね……。といいますのは、弟にはこの子の上にも二人の子供がいますので、新しい嫁が、もう少し新生活になれる迄は、ということ、今の所、まだ私が育ててい

るようなわけなんです。」

いたずらに、不慮がつたり甘やかしたりのかり、その愛情ではなく、真剣な姿勢に貫かれた、大きな慈愛を精一杯、この甥ごさんに注いでらっしゃる菊田さん。

「ほめる時でも、叱る時でもうちの子とおんなじ調子でやるんですよ。」

坊やには、全く屈託がない。「おかあちゃん、おかあちゃん」と菊田さんの膝に甘え乍ら、乗物にのる券を買ったための

お金を貰つては、うれしそうに馳けて行つて、お気に入りの自動車の上でニコニコ。人見知りもしない、この坊やの笑顔の中に、菊田さんの日頃のいづくしみが余すところなく、にじみ出ている感じ。



「そうですね、私はどちらかといえば、家の中の事をするより、外に出て、人に接している方が好きですね。随分前、若い人達に洋裁を教えた経験があるんですけど……、何か他のことでもいい、何かお仕事をもちたいですね。『わいふ』のアンケート特集で、同じ40代の人達のは、幾度も読みました。でも私の場合、主人の勤務が大変時間的に不規則なものですから、それに合せたパートの仕事等一寸ないでしょうしね。最近、妹が施設の方で働くようになって、その仕事振りやその背景などを聞かされると、尚更刺激をうけて、働きたいなーと、しきりに思うんですよ。」

「今、私がいちばん打ちこんでいるものですか。……それは、お話です。月に一度、先生のお家に伺つたり、仲間と一緒に練習したり、一人で家でやつたりとお話をしている間は、何もかも忘れてしまつてるんですよ。末長くやって行けそうに思えますし、自分でも、将来をとて



も楽しみにしているんです。」
菊田さんがお話しして下さった事を、唯々、書き並べることになつてしましましたことを、とても残念に思っています。この上は、読んで下さる皆さんの胸の中で、それぞれに菊田さんへのイメージを描きをお願いする他なさそうです。

(後藤美和子記)

ソビエトの婦人労働者(1)

那覇市 大城 貴代子

一、はじめに

私は、総評とソビエト労働組合中央評議会の交流協定により、婦人の交流団（团长 総評婦村部長、主婦の会、静岡県、沖縄県労働、中立労連の各代表）の一員として、去る十一月二日より約二週間、ソビエトの各地を訪れ、婦人との友好を深め十三日帰ってきました。

このように中広い婦人代表団は始めて、各地で労働組合の最高婦人の幹部のご案内、及び数多くの人々に心からの歓迎をうけ一生忘れることのできない交流をすることができました。

さて、私のソビエトに対する予備知識としては、去る三月、沖縄ではじめて三名のソ連代表の婦人を招いた婦人の交流集会の中で、意見交換をした位のもので、ほとんど未知であったし、日頃の婦人運動の中で想像していた社会主義体制のもとで、婦人の労働保護状況、保育状況、就学教育等がどのようにされているのかをつぶさに見、聞き、確かめる機会を得たことは、ほんとうによい体験となりました。

この短い旅の中で、最も感激したことは、婦人が働く事があたり前となっていること、さらに日頃私自身が抱えている悩み、即ち、働く婦人の母性保護と婦人の地位向上の関係が完全に確立していること、また、働く婦人のための保育がき

めこまかい整備されていること、その上家事労働が軽減され、仕事と家事、保育が完全に両立できるシステム、体制が整っていることなど全くうらやましい限りでした。

私たち婦人労働者が、連日連夜家庭で、職場でそして地域で闘っていることこそ、この悩みを解決させるべく闘い、すなわち婦人解放の闘いなのですから。

働く喜びを充分味わい、子供を育て、何の心配もない生活、安心して迎える老後、社会保障が行き届き、ぜいたくとは云えないまでもみんなが生活をエンジョイしている姿をみたとき、代表団、異口同音にもつと若かったらこの国へ住んでみたいとため息をもらしたものです。

わずかに二週間の旅で、ほんの一部を知ったにすぎないかもしれませんが、社会体制のちがう社会での人々の生活を目的に、あたりにみ、とくに婦人と子供を大切に、する国という印象を心の奥深くまで刻み込まれました。

また、ちょうど十一月七日、八日は、一九一七年十月革命にあたり「革命五六年周年記念日」の招待をうけ、クレムリンの赤の広場で厳しやかな式典に参列することが出来たことも、ソビエトの今日までの長い戦争に対する歴史等について考えさせられました。

また十五の共和国の中、ウクライナ共

和国（首都キエフ）を訪問することが出来たことは、モスクワやレニングラードとは違った感じのものを経験することが出来ました。

最後に、この貴重な体験を皆んなのものとするために、婦人運動の中でフルに生かし、今後何か大きな指標をみつけた想いで元気よく歩みつづけたと思います。

この報告書が婦人問題の何らかの参考にもなればと思いつづりました。

二、労働組合とその役割

今回の私たちの交流目的は、ソ連の婦人労働者との交流が主であり、総評と全ソ労評との交流協定に基づき、全て労働組合の方々のお世話で各地の婦人労働者との交流、工場見学、施設訪問をしてきました。

まずモスクワでは空港への出迎えは深夜の午前〇時半すぎ、小雪もちらつく零下八度という寒波の中で全ソ労評の住宅課長ゾーヤさんと通訳のイリーナさん（平常はモスクワ放送局の日本語料で番組担当というすごい美人の二十八才、独身女性）他数人の役員の方々から真赤なカーネーションの花束で出迎えをうけ、労働組合のホテル（スプートニクホテル）という地上十五階建の宿へ落着き、ここをねじろに約十日間の日程を過した。

とくにモスクワでは全ソ労評の方々、さらにウクライナ共和国ではウクライナ地区の労働組合、レニングラードでは同じくその労働組合の方々のお世で交流をした。ソビエトでは労働組合は産業

別に組織され、その中央的なものがソビエト労働組合評議会（全ソ労評）で本部はモスクワ大学の近くに五階建のビルをもっている。

最高幹部として議長の他書記（日本の書記長のこと）と各々専門部長の下に多数の職員が働いている。そして、各地区における労組（県評や地区労）もあり、議長や書記長さらに専門部長にも沢山の婦人が進出している。

十一月十一日、ホテルのすぐ近くにある全ソ労評本部へ行き、労働組合の最高幹部の一員である婦人の書記長、ビル・コワさん、さらに全ソ労評の住宅保障部長のクビヤツクさん（去る三月沖縄にも来訪）、ゾーヤさん（住宅課長）の他各専門部長（労働保護部長、法律部長、社会保健部長、文化大衆部長、賃金部長）の出席のもとで約三時間にわたって労働組合の運動目標や労働条件等について活発な意見交換をしました。

話し合いの要点をまとめてみると、およそ次のようなことが云えます。

▽婦人対策

男女平等という基本的な原則のもとで、今婦人の課題としては、職業婦人の技術をいかにして向上させるかが大きな課題となっている。

とくに、農村の婦人をコンバイン・トラクター・コンピューター部門内で働かせるための資格を取らせることに力を入れている。

そのために、最近では、① 婦人のノルマを一〇％切り下げ賃金はそのままだに保つ、② 十二日間の追加休日が増えられ

たこと、③年金移行年令が農村婦人に
対して引き下げられたことなどの様々な
対策がとられ、いくら男女平等であつて
も、やはり婦人には主婦としての仕事
があり、女性に負担が多かるので、働
きながら婦人の資格を向上させること
を懸命に検討しているとのことであつた。

▽母性保護状況

○最近では、若い婦人が母乳を与える期
間を少くする傾向が強くなったので、
子供の健康を考慮して、あくまで決定
するのは、母親本人であるが、企業や
国は、子供の育児休暇を多面的にとれ
る様に配慮している。勿論一年間の無
給休暇であるが、復職は完全に保障さ
れ、収入が五〇ルーブル以下の場合
は、収入が五〇ルーブル以下の場合
は、休暇中九カ月間は補助金がもら
える。

○次に、去る十月一日より産前産後休
暇中の賃金が勤続年数に関係なく一〇〇
%支給される様になったが産休は産前
産後各々五六労働日(約二二〇日以
上)となっており、難産とか、双子の
場合は産後は七〇日労働日へ延長さ
れる。

さらに普通産後休暇は五六日(一カ月)
行使のあと有給休暇(十四―四八日ま
で)をつづけてとるので産後は平均三
カ月は休むことになっている。

○育児手当金として一時金三〇ルーブル
(一ルーブルは約四〇〇円)が支給さ
れるが勤続年数も計算される。

○子供の病気のための休暇が三日から七
日へ延長され、一〇〇%有給で休める。
○軽作業への転換制度として賃金は前の
職種のまま支払いを受ける。

○重量制限として、婦人に一日の総重量
何キログラムかかえるかにより制限さ
れる。一応二〇キログラムとなってい
る。その他妊婦の解雇制限という特権
がある。

このように、母性保護の諸制度をみる
と、いかに婦人の母体を大切にしてい
るかがよくわかるが、婦人の二交替勤務
や深夜勤務についての疑問を私たちは抱
き質問の中でおよそ次の事がわかった。

婦人の交替勤務については、朝六時三
〇分―十五時迄を一交替、十五時―三
時迄を二交替という状況で、ほとんどの
職種が現在二交替制であるが、看護婦、
紡績、病院の世話人等の職種については
当分三交替制の現状をつづけていかな
ければならないが、将来は徐々に深夜業
はなくす方針である。又深夜業とか交替
勤務については母性保護の立場からでも否
定的でないという観点に立っているとい
う回答にある通り、空港でもホテルでも
真夜中に婦人が沢山働いていたのには少
々驚いた。ただ余りくわしく聞けなかつ
たのが残念だが、乳児や未就学児をもつ
母親は深夜業や交替勤務が免除されて充
分保護されているし、深夜勤務の回数と
か、労働密度によっても異なるであろうか
ら、日本の様な交替勤務制とか深夜業を
そのまま想像して考えるということは危
険だと思ふ。

▽未就学児対策について

現在約一、〇五〇万人の未就学児がソ
連邦にはおり、託児所と幼稚園に通つて
いるが農村や企業ではまだ施設が不足し
新都市に新企業を建築するときはノルマ

を上げるようにしている。最近では老人
(主におばあちゃん)が不足し、この対
策として託児所と幼稚園を一緒にしたコ
ンビナートを現在早速につくる様に進め
ている。託児所は三才未満、幼稚園は三
才以上の年令による区分の様に見受けら
れた。

このような託児所、幼稚園は工場の中
にあるもの、地域にあるもの様々なよう
で保育時間も十二時間、二十四時間、一



ゴールキーの丘 レーニンの最後の家が
あるところの門です。

週間ずつと預かるもの色々多面的になつ
て、働く婦人が利用するためにきめこま
かにその運営がなされ、ほんとうにうら
やましい限りであった。

さらに、カギツ子の対策については、
各住宅棟毎に「生徒の部屋」があり、カ
ギツ子のためにサークル活動を指導して
いる。又放課後の教育は学校内において
主任の教授がいて、宿題、スポーツ、リ

クレエーション等の指導にあたり給食も
出しているとのことであつた。

その他、夏にはビヨニールキャンプと
いって長い夏休み(三カ月間)を郊外で、
過すための施設、幼稚園児のための別荘
等も各工場が持つていて、子供のために
はいたれりつくせりの対策がなされてい
た。

また、時間の都合で残念ながらよく理解
できなかった事だが、最近カリキュラム
が小学校一年から四年までを対象に変更
された事で、肉体的にも精神的にも子供
達が疲労を感じているという訴えが、あ
ちらこちらであるが全ソ労評でも、保育
、文部省、文化大衆部のそれぞれの立場で
検討中であるとのことだったが、推測す
るに、かなり国家が幼児教育に力を入れ
ている事がわかる。

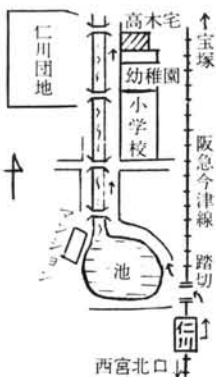
つづく

1 月例会のご案内

日時 1月27日(日) 1時より

場所 高木由利子さん宅

(阪急今津線仁川駅下車、徒歩15分)
今年はいじめての例会です。新入会員
の方も、どうぞお気軽にご出席下さい。



私は話し方をこう生かした

大阪市 吉田 てる子

みざる、きかざる、言わざる、の三義主義も、目は口程にものをいう、という言葉も今の社会では通用しなくなった。だまっていって何が相手に通じるものか。

私は婦人会という組織の中で役員を指名され九五年間話し下手という看板のもとに同等の話し合いの場をさけて来た或る日、口下手の上ぬりをといった失敗をしてしまった。

研修会で一番大切な司会をすることになった役割分担で、ことわり切れなかったことも事実。

控室で順位を教えられ、その場にのぞんだ。みんなの顔が見えない程あがつてしまったものだから、言葉の間違えるやら、ドモルやら赤面もよいとこ、にぎっているマイクも、私もガタガタゆれだして、そのあと何をいっておさめたのか、みんなから笑われ、今でも話題になる程。

それ以後、自信をすっかりなくし、引込思案になってしまった。あらゆる場所と人と接し、対等で話す機会があるのに自分からにげることばかり考え、役員研修会に参加しても自発的に意見をのべることはしない、指名されたら発言し、意見の相違があれば二度と発言をしないといった態度をとってきた私を見て、そんな或る日、友だちから、

「此の頃のあなたは卑怯や、顔を並べているだけや、だまっていることが平和主義

義やと思っけていても駄目や、矛盾だらけのことが無視されて通っている。それだもだまってい見すごすの、思っていることを話して相手にわからせるのや、それが出来なければ役員をやめたい」と。話してわからせる、何回もかみくだいた、そして考えた。私はどうすればいいのだ話してわかるような相手であれば、こんなに苦しまないと自分に話しかけてみる。話の障害の処置についてのテキストを見る、「劣等感をもつな」「話の出来ないのは話でなかせ。そうだ、自分から線を引いているではないか、そんなことでどうする、友達という通り、自分から話しかけ、相手にぶつかって行こう、その機会は、なに、むづかしいことは考えないで、あいさつからゆこう。そして会議には予定の時間より早く行き、あいさつをしよう。

「お早ようございます」と勇気をだしてやってみた。相手はへんな顔をしながら「お早ようございます。今日は大変早いね」と返答があった。これだ、これを実行しよう。私から批判的な態度をとり、意見は合わないかと否定し、聞こうともしなかった私にも問題があり、私とあの人との間に引かれていいる一線は自然に消えて行くだろう。「お早ようございます」と交す言葉にも話の出来ないのは話でなかせといわれる通り、話をするのであ

り自分の態度も相手の行動もかえるということを知った現在、生れつきの性質、口下手でという看板をとり除きたいし、相手に十分わかるような話し方を習得し、実習の中から実力を養って育てていかれるこの教室に通って私は、「自分から何でもやってみよう」という気持ちに変わった。話し方の態度、よい動作まで教わった。

わいふ編集部宛、年賀状を頂き、ありがとうございました。どうぞ今年もよろしく……



★ 新年おめでとうございいます。今年に入學・入園、次女はよちよち歩きと忙しさが倍増し、暇をつくって、ママさんバレーに汗を流すという日々が続くことでしよう。

(熊本市 平山 博子)

★ 謹賀新年 わいふの編集にあたってくださる皆さん、いつもごころう様です。モノ不足、物価高で明けた今年ですが、本当のことをみつめる目と感じとる心を養いたいと念じている次第です。わいふの発展、成長を心より期待しております。

(城陽市 密谷 照代)

★ 新年おめでとうございいます。暮れに朝日紙上で編集部の皆様のお写真を拝見お懐しく切り抜いておきました。いつもわいふを作り送って下さる皆様の心意気。働らく主婦として母としてこの

その活用篇として、結婚媒妁人としてのあいさつに苦しむ主人に自信をもってアドバイスも出来るのではないかと、日常必要とする報告、各種のあいさつ、こういった自信が得られたこの収穫を、人生航路と共に一層明るく生きて行きたいと、希望にもえている私である。

十年、あつという間に過ぎてしまいました。五十の坂をこえ、そろ／＼身体にもくたびれを感じ、これからは公私共に多難な人生にラストヘビーをかけなければと思ったり、風まかせ気まかせに悠々と思ったり。又この一年よいわいふを拝見する時を楽しみに致します。

(枚方市 大角田 鶴子)

★ 新年おめでとうございいます。いろいろと大変らしいですが、今年も時々書かせていただきしたいと思います。書ける材料を持てる自分でありたいと思います。

(大阪市 渡辺 富子)

★ 明けまして、お目出とうございいます。晴れてあたたかい元日を迎え、石油を売り惜んだ人や、買い占めた人たちに、エヘヘと笑いが止まらない感じです。

(東京都 岩田 元子)

その他、徳島市の佐藤泰子さん、南河内郡の土井邦子さん、徳島市の喜多和子さん、芦屋市の斉藤るり子さん、宝塚市の土屋比佐子さん他からもお年賀をいただきました。

私のしごと (2)

—世の中そう面白い、話はなし—

川西市 十日市睦子

「ラボ・フェロウ・シップ募集」言葉に興味があり、英語を少し解する人なら誰でもよい。教えながら貴女自身も学べる」というような広告にひかれて応募したのが、昨年六月の中ごろだったろうか。数日して電話がかかって来た。「ラボ・パーティー」の方にまわってくれないかというのである。フェロウの方は相手が大人であり、こちらの方は子供に教えるということらしい。私は

「子供より大人の方がいいんですけど」と云ったのだが、
「大人の方は夜になるのです。主婦の方は夜の外出はだめですから子供の方にまわってもらっているんです。」
「夜と言っても毎夜ではありませんでしょ、せいぜい週二日ぐらいでしょ。」
「そうですね主婦の方は夜はだめなんです。それにフェロウの方はいま募集していないんです。」
何んということだ。現に募集していたから私は応募したのだ。それらの問答をくり返したあげく、

「フェロウの係の者に言っておきます。でもいずれにしろされる意志はあるのですね。」
「はい」という事になった。
主婦は夜が出ていかどうかは何にも相手に決めてもらうことではなく、私自身が決めるべき問題なのだ。何んという御親切さ。今は少し忘れたが確か各企業に出張していつて、英語の苦手な社会人と

共に勉強なんて書いてあったのだ。それからだいぶ経って説明会の手紙が来た。子供達はもう夏休みに入っていた。指定された会場は大阪駅より徒歩十―十五分のところであつた。十時―四時まで連続三日間。私は夏はサマータイムなので、八時すぎに家を出ることは別にどうということはなかったが、それでも前日にあくる日の夕食の買物、私のいない間、子供達が退屈しないように、つまらないフロクいっぱい月刊誌などを買いおいたりして、私が一日家を明けるための下準備をした。当日の朝、洗濯をし、三人と私のお昼の弁当を作り、子供に一応一日の時間の割り振りを言い聞かせ、もしも何かあれば〇〇さんか××さんの家に行きなさいと呉々も念を押して出るのはやはり気ぜわしかった。

十時前大阪の街はもうカン／＼と照りつけていた。会場の受付口のところで名前を言ったらバサリと幾種類ものパンフレットを渡され、それと引き替えに三日間の受講料二千元を払った。関西一円に募集した人々をこの大阪に集めているらしく、奈良県や滋賀県はもちろんのこ

と兵庫東北部の豊岡あたりからも来ていた。この時間にここに入ろうとすれば、一体何時に家を出たのだらう、そしてきょうだけじゃなく明日もあさってもあるのだ。皆で三、四十人ぐらゐ。全部女性で、年令はまち／＼。それでもヤングミセスが半数以上で、あと子供の手が離れ

かかっている人やミス。私のような中途半端なのは少なかった。

第一日は「ラボとは何か」に始まり、我々チュウターの仕事は、英語を教えるのではないこと、言葉を通じて人間の心を教えるのだ。だから夏休みはキャンプに行ったり、クリスマスには子供達に英語劇をさせたりして子供と一緒に遊び、その中で子供の心の成長を助けるお手伝いをするのだなどと言われた。こゝで何人かの子供の方にまわされ、そのための講習であるのに気づいたのだ。あちこちでぶつ／＼言う声は出たが抗議の声にはならなかった。

まるで〇〇スカウトの団長さんのようなこともするのだ。ああいやだいやだ。四十五分の昼食時間の後、ラボ機（決してテープレコーダーとは言わない）の説明に入った。このラボ機というのはうまく出来ていて、ラボ用のテープしかかからないのだ。ラボのテープもまた同原理でラボ機がないと役に立たないというしろものなのだ。ラボ機が三万五千円（あるいは四万二千円だったかも。忘れた）。テープが一本二千―三千円。チュウターになるためにはラボ機及びテープを最低十本は最初に買わなければならない。そして子供にもこのラボ機とテープ一、二本はまず買ってもらおうという。このテープには一センチンスずつ英語と日本語訳が入っていて一つの物語が吹き込んである。これを子供に聞かせながらその物語の絵本を見せるのだ。子供達一人／＼にどうしてラボ機を買わせるかと言うと、家で絶えずその物語を聞かせるらしいのだ。誰か質問した。

「そんな高価なものを子供のためにパツと買ってくれますか」と。
「案外買われますよ。躊躇している方にはあせらないで、家具を買うのと同じ事です。よと説得されたら大体はうまくいきますよ。月払制度もあるのだし、もしそれでもだめならそのブロックの他の経験あるチュウターに相談してみたらいい、と思います。」
さて、とにかく私のはじめるとする。子供募集のためのビラは大阪の本部で印刷してくれる。そのビラを学校前で配ろうが戸別にポストに入れて歩こうが、これはいち私まかせ。そして子供が十人ぐらゐ集まったらとする。一人千五百円から一万五千円。この中から支部会費、本部会費と納めた残りは一万円弱という計算になるのだ。この本部、支部というたての關係はがっちり組織化されていて、ラボをやるのなら絶対この中に入らなければならないことになっている。キャンプや交換パーティー、支部の研究会や本部の総会と結構歩かなければならず、そして先きのアメリカ商法。聞けば聞く程腹が立つて来て、私はもう四時まで座っている気になれずもぞ／＼していた。

三時すぎ、ラボ機の使い方の説明に言い出したとき、今だ。私はこんなやり方はやる気になれませんから帰ります。明日以降の講習も受けません」かくて二千円と丸一日はパー。あの受講者のうち何人の人が実際やりはじめるだろうか、そんな事を考えながらも、頭はカッカしていた。
夢々ラボなるものにひつかかることなかれ。うまい話にはうらががある。い、勉強になりました。

つづく

朝日新聞

切抜きから

昨年の十二月十九日付の朝日新聞に、わいふの記事が載りましたが、ご覧になりましたでしょうか。本当は皆んな、もう少し美人なんです。写真があまりよくなくて残念でした。取材には忙しい中を、十日市さんと後藤さんが応じて下さいましたが、新聞の表側の読手専門の立場から、はからずとも今回、記事の裏面をちよつぱり経験し、い、勉強になりました。それにしても新聞の影響力って大したものですね。記事が出てから一日程置いて、わいふを読んでいたという申込が来はじめました。今日までに約80通、アンケート特集や、通常号を発送しましたが、その内、20名の方が新しくわいふのお仲間になりました。前回の、私の受けた教育、の場合は、教育関係の方が多く、記念号を読みたいという申込が多かったのですが、今回は特集の、母親が外で働く事について、への関心だけでなく、わいふそのものに興味を持たれた様で、それが新入会の数に表われている様に見えます。

(鈴木記)

働く母親の心情追跡 ミニコミ誌「わいふ」

強い「自立」への願望



三十代後半から四十代の母親が、わいふのミニコミ誌「わいふ」を手に取り、真剣に読んでいる様子。

手ごたえがつかない。わいふのミニコミ誌「わいふ」を手に取り、真剣に読んでいる様子。

(家庭)

昨年の十二月十九日付の朝日新聞に、わいふの記事が載りましたが、ご覧になりましたでしょうか。本当は皆んな、もう少し美人なんです。写真があまりよくなくて残念でした。取材には忙しい中を、十日市さんと後藤さんが応じて下さいましたが、新聞の表側の読手専門の立場から、はからずとも今回、記事の裏面をちよつぱり経験し、い、勉強になりました。それにしても新聞の影響力って大したものですね。記事が出てから一日程置いて、わいふを読んでいたという申込が来はじめました。今日までに約80通、アンケート特集や、通常号を発送しましたが、その内、20名の方が新しくわいふのお仲間になりました。前回の、私の受けた教育、の場合は、教育関係の方が多く、記念号を読みたいという申込が多かったのですが、今回は特集の、母親が外で働く事について、への関心だけでなく、わいふそのものに興味を持たれた様で、それが新入会の数に表われている様に見えます。

生活に張り 悩みは育児

生活に張り、悩みは育児。育児は、母親にとって、最も重要な仕事の一つである。

育児は、母親にとって、最も重要な仕事の一つである。育児は、母親にとって、最も重要な仕事の一つである。

育児は、母親にとって、最も重要な仕事の一つである。育児は、母親にとって、最も重要な仕事の一つである。

☆ 奈良市 小堀 裕子
 早速雑誌をお送り下さってありがとうございます。

☆ 生駒市 西 洋子
 先日「わいふ」をお送り頂きましてありがとうございます。

☆ 鳥取県 成川 とし江
 わいふは前にも雑誌が何かで知っていましたが、その頃はまだ幼い三人の子供達がいなかったので、とてもそれどころではありませんでした。

☆ 鳥取県 成川 とし江
 わいふは前にも雑誌が何かで知っていましたが、その頃はまだ幼い三人の子供達がいなかったので、とてもそれどころではありませんでした。

になく早くからよく雪が降り、昨夜からで、50センチ以上つもっていて、まだ今もやみそうにないようです。
今後共よろしくお願い致します。

☆ 神戸市 斉藤 久子

寒い日が続いています。連日の物価値上りにこの寒さは一層身にこたえる感じがします。わいふの皆様の御活躍、新聞で拝見しました。ぜひ読ませて頂きたいと思っています。どうぞよろしく願います。

☆ 長岡京市 中西 清美

何もかも放り出して「母親が外で働くことについてのアンケート集」にとにかく目を通しました。私は今25才、「仕事」にも「社会」にも存分に未練と執着と関心を持ちながら、社会的にも個人的にも仕事を離れることを余儀なくされて、締めの中に「反省」している私には、約10年前に私と似たような道を歩まれた方のアンケートを見る事はとても参考になります。それと同時に「母親」というものを「子」の立場からしか見ることはなかった私が、これからひよつとしたら「母」の立場にならねばならないかもしれない今、母親達のホンネをうかがえるように興味深くもあります。どうぞよろしく願います。

☆ 愛媛県 平山 久子

わいふお送りくださいましてありがとうございます。まだじっくり目を通しておりませんが、アンケート集、興味深く拝見しました。なるほどなあ、やっぱり

りなあーと。私31才、5才と1才の子供が居り、現在家庭にありますが、上の子が1才の時から保育園のお世話になり、働いた経験もあります。3年前より東京から瀬戸内海の小島に引越し、隣島へ勤めたりもしましたが、次の子はこの辺りでは保育所も3才からと預けられず、家におります。都会と異なり、主婦が働く為の多くの不利な条件を体験しました。最近になって通信教育を始めたので、今年は忙しい毎日になりそうですが、よろしく願います。

☆ 広島県 延近 静子

アンケート集など興味深く拝見しました。外で働く母親達、失ったものより、得たもの、方が多いとの御意見、私にも肯定出来る気が致します。洋裁一筋に生きた十余年から、180度の転換、勿体ないなどと周囲から言われながら、初めて外へ飛び出した4年前の1月。頭の鈍さにわれながらアイソがつきそうな事も度々ですが、建築会社の事務員として、どうにかこうにか4年過ぎました。今年はいよいよのお仲間に入れていたゞいて、「一歩前進」「二歩前進」と行きたいものも張切っています。（例年通りの年頭の意気込み）と誰かに笑われそうですけど、御当人は至って真面目）どうぞよろしく願います。「火灼」短歌会に入っています。

☆ 神戸市 梅田 宣子

わいふ送っていたゞきありがとうございます。興味をもって読みました。自信をもって働いていらっしゃる方の話に

は説得力があり、うらやましい思いで読んだ次第です。新聞記事の中で高木さんが「長男が生まれてボーヴォワールを読みはじめ……」とありましたが、私も長女が6ヵ月になり、出産当時に比べれば昼間の時間に余裕も出来はじめ、最近では、ボーヴォワールと長女にかゝりつきりて時間を過しています。結婚する以前から女も自立をと思ってきましたが、子供が生まれたことによつて、一時あきらめかけていたその思いも、ボーヴォワールの本を読むうち、あっさりあきらめてしまふことはいない、また思ひはじめていたところです。いろいろな立場のいろいろな個性ある皆様の会に私も入れて下さい。今後共よろしく願います。

はじめまして

広島県 松原 敦子

よわい四十才といつても一月末には一つ大きくなる。年令的にも何かの境目、しきりと何かを考える。結婚以来十四年間、それ以前は六年間、洋裁という職業を背負って、今では家族同様、我人生の伴侶となつてしまつた。ここらでこの職業をもつて人前に出ようとは思わなかった私も、ちよつと才能をひけらかしてみたい欲望しきりにする。不勉強の言葉が足を引張るけれど、大宅壮一さんの四十、五十は人生才能で生きよという言葉（ちなみに六十才は人格で生きよだそう、三十才は何と言われたか知っている人があつたら教えて下さい）にしきりに魅かれる。今迄は家計の赤字うめと、少々ばかり

り我たのしみの域を出なかつたが、今からは、それもさることながら、自分で築いたものが捨て切れぬ老境を持つ土台を築きたい。お金を貯める事にはどうも性格的にも、人相的にも（こゝろわつておきますと、お金を貯める人は、もつとゆつたりとした、人相骨相がいるのだと、私は人生経験で感じているのです。お利口であるのに馬鹿に見える人、言葉は悪いけれど、これは大切な事なのです。いわゆる運根の鈍の部分、この部分が人相に出ていないといけないうたいですね。私は目がギョロツとしています。これは人に警戒心を起させます。そして骨格がもう一つゆつたりさに欠けています）どうひいき目に見ても縁のない顔、身体つきだ。性格的にもお人好いにくせに、すぐ人の氣勢を先走りして読みたがる。ゆつたりとしたところがないのがいけない。これは入ったお金が出て行く第一条件みたいだ。まあお金もうけはいい。沢山なくても嬉しくなる程度に入れば。この嬉しさは私の場合、割合お金の額ではない。私の技術が、お金になつて返ってくる喜び、これはほんとに貴重なことだ。私は同じ年令の人より、白髪も少なく、小じわも少ない？のは、この喜びと緊張が、我人生の伴侶だからだったのだと自負している。

自分が居なければ、この場が持たないという人間で死ぬまで居たい。が、これは自己主張も完璧になると、冷水的にもなり兼ねないので、少くとも、貴重がられる老人でいられる努力はしておくべきだと思つている。

和光学園の四季 (3)

東京都 矢崎好子

お昼になると、家族おのおの、校庭の好みの場所に陣取って、ピクニックのようにお弁当をひらく。

午後の部では、私は二人三脚に出場させられ、途中で転倒してけがはするし、娘には「カッコわるい」と文句を食うし、閉口したが、同じような人はあるもので、お父さんたちの「タイヤころがし」のとき、タイヤでなくて自分が三度もころがってしまった人がいた。三度めにひどく体を打って、しばらく起き上がれずにいたところ、観衆の中から男の生徒がとび出して、彼をたすけ起した。どうもその態度から推して、息子のように思われた。ヤレヤレ。私は映画「自転車泥棒」の最後の場面を思いおこしながら、彼らのために拍手したのであった。

番組が進んで、今日の演技中の白眉、六年の騎馬戦となる。

最初は団体戦、男女入り乱れて、めちやくちやに掴み合う。

このごろ公立では騎馬戦といっても、帽子をとる、鉢巻をとるという程度のところが多いのだが、ここは騎手が徹底的に格斗して、相手を引きずり下ろさなければ、勝負あった、にならないのである。まことに勇壮な競技、女は騎手も馬も女だが、それがかなり強い。麻子とは見れば、彼女は自分の体が大きいのを

指していても、馬が支えてねばりにねばる。そういうとき、審判の先生が二人で、地面に這いつくばい、髪の毛一本でも土についたら、勝負あったを宣しようと、けんめいにかがっている。

親はワアワアと叫び立てる。ようやく審判が下った、と思ったらモノいいがついたとかで、先生たちがいい合いをしている。

大人げないといえれば大人げないけれど、私が経験した公立の運動会の、整然ととりすましたふんい気になると、いかにも情熱的でおもしろい。

次に低学年の「竹取り合戦」、これもまた勇ましい競技で、それぞれ相対する敵の陣営に攻め入って、たてである一本の竹の棒……守る方は大ぜいでそれにしがみついて、とられまいとする……をうばってくるというものが、竹を引き倒すときに、すでに組んずほぐれつのとつくみ合い、ようよう倒して引き出せば、守備側は鈴なりにしがみついてとられまいとする。引きずられる、押し倒される、下敷きになって泣く子がいる。ふり飛ばされ、転んでけがをする子が出る。公立ではこんな場合、すぐ救護班がかけつけて、その子をつれていくが、ここでは救護班がないのか、それとも彼らまで応援に夢中で気がつかないのか、誰もたすけにいかない。先生もかすり傷と見てかしらん顔。その子は泣きながら、また棒にしがみついた。主人が呆れ顔で、

「こりやあバーバリズムだね。」

というので、
「一朝革命というときは、このくらい

バイタリテイがなきゃだめだっていうんじゃない？」と、私は笑ったことであつた。そして、もつとも私の心を打ったのは、最後の高学年全員リレーである。

リレーが始まったとき、四人いるはずの走者が三人しかスタートしないので、ふしぎに思い、「アラ三人よどうしてかしら」といううちに一人の子がずつとゴールに近いところを、すでに走っているのに気がついた。その子は……おそらく小児まひだと思う。手も足も不自由な感じで、表情もゆがんでいた。しかし自分だけのスタートライン……それはゴールの近くである……から、けんめいに走り出して、今やゴールに近づきつつあった。そこへ、健全な子どもたちが追いついて来た。どっちが先にゴールに入ったか、それを私は見ることができなかった。目が涙で一ぱいになってしまったからである。なぜか？それは、私はこの不自由な子の扱いの中に、和光の教育が、あの公立の教育を律している「優勝劣敗」の法則を、完全に排しているのを見たからであつた。

楽しい和光の運動会の話はこれで終ろう。そして私の涙の原因をさかのぼることにする。

麻子が三年生のとき、彼女は通信簿をもらってかえって来た。それを見せて、「麻子わるい成績でしよう？」といった。たしかにいい成績ではなかった。何と答えるべきか、すこし迷ったが、

「麻子は今まで、ほとんどうちで勉強ということをしていないからね。それで漢字もおぼえられないし、成績がよく

月輪の滝紀行

枚方市 重川

雄

一、

轟然たる音を立てるもよい

また、激しい飛沫を上げるもよい

併し、月輪には――

音もなければ飛沫もない

只、寂然として、

しじまなる岩清水が流動する。

二、

其の綺麗な水の流れがよいのだ

山の緑がこの水に影を落し

溶々として妙音を奏でながら

山岳の間を縫って走る

この永遠なる囁き――。

三、

汚れきった水と

混濁した空気に労れた

多くの人達が求むる

清浄なる空気と水が

ここには餘すところなし

溢れ、満ち、迫り来る。

(月の輪の滝は河内交野山麓にある)

ないのはあたりまえよ。学校で先生のいうことを、ちゃんときいていないせいもあるね。そういうことを改めれば、きつと成績もよくなるはずだ。だんだん大きくなってきたのだから、もうやる気になつてもいいんじゃない？」

「ママ、勉強のできる子はいいい子で、できない子はわるい子なの？」

「ママはそうは思わない。」

いいながら、私は、これは結着をせまられたと思った。前年、二年生のときに事件があつたのである。幼稚園からの親友が、勉強ができて、できる子のグループに入つてしまい、麻子は「できない子だから」といわれて、そこからしめ出された。おとなしく引き下るような子ではなかつた。彼女は其の連中と大げんかをした。けんかしても解決するような問題ではない。子どもの世界で、どういふことがあつたのか、くわしくはわからないが、彼女の心と行動は荒れはじめ、し

いにはクラス全員を敵にまわして、怒ると暴力をふるい、皆から「キチガイ、狂犬」とののしられるようになった。私は彼女が情緒の安定しない子であることを知っていたし、その原因が、もっぱらはじめての育児の失敗にあると思つていた。私は彼女を「かわいがる」ことがむずかしかつた。かわいひより先に、「しつけなければ」「叱らなければ」という義務感のほうが先にたち、その義務感は辛く重く、毎呼吸が詰まりそうであつた。この道を行つては、私も麻子もだめになる

と思ひながら、しかもなお、面とむかつてはやかましく彼女を責め、遊びに出ていなくなると、放任した。その痛切な反省がありながら、よい方向を見出せないでいただけに、この「キチガイ、狂犬」という言葉はこたえた。私が苦しみ悩みながらも、どうすることもできないでいるうちに、彼女は熱を出して、二年の三学期長く学校を休んだ。私は今ではこの微熱が、登校拒否の手段であつたことを確信している。彼女はなんらかの方法で、体温計を操作したのである。ずっとあとになつて、さりげなくそれを認めたことがあつたけれど、私は問い詰めることはしなかった。

三年になつての、この通信簿のとき、

「できる子はいいい子で、できない子はわるい子なのか。」という彼女の言葉から、私は前年の事件が今まで尾を引いていて、どうかして解決しなければならぬところへ、来ていることを感じたのであつた。「どうしてあなたはそう思うの？」

麻子の答えは明快であつた。

「だつて学校じゃ、できる子には◎をくれるし、できない子には、○か△しかくれないもの。それにどこのお母さんだつて、◎をとればほめてくれるんだつてよ。麻子は◎、とつたことないでしょう？」私は彼女の通信簿に對して、いつもどいう態度をとつていたかというところ、「ああ、そう。」と受け取るだけで、はじめ叱りもしなかつた。たしかによくがんばつたね、といえる成績ではなかつたし、叱ることは悪影響があると思つたのである。それはまちがつていたのだろうか？

やはり悪い成績なら、「悪いから勉強せよ」というべきだつたか？ それとも、「○があるからよかつたね」と、水準を下げてほめればよかつたのか？ やはり評価にはその役割があるのだから、無視してはいけなかつたのかもしれない……でもまだ低学年なのだから、こんな小さな子を相對評価で分けることにだつて問題がないとはいわれぬ……。

私がどういふおつかと迷つていると、麻子の涙はしだいに多く、雨のようになり、次のような言葉がとび出した。

「あたしは勉強ができない……あたしはダメなニンゲンだ……」

これをきいたとき、私は一時に頭に血がのぼつて叫んだ。

「ばかなことをいうもんじゃない！人間、勉強ができたらいふことするか、けつしてそんなことはないんだ！

あんた戦争のマンガを読んで、この間こわがついていたじゃないか。あの戦争を誰がおこしたと思う？ 皆頭のいい、勉強のできる人たちがおこしたんだ。勉強さえできれば、いいてもんじやないんだぞ。

ママはあなたに勉強して欲しいと思う、それは人よりエラくなるためじゃなくて、何がいいことか悪いことか、わかるようになるためなんだ……」

大声叱呼しながら、私は現在の教育の体制が、このような考え方を子どもに植えつけるのではないかと、深刻な疑いを抱いた。

土地騒動

(その4)

大阪市 杉本輝子



48年3月2日、M氏再々来宅。1日に主人の姉が急死したので通夜にいついて留守だった。

「また日曜日にお伺い致しますよつてよろしゅうに」

と、娘にことずけて帰らはった。

姉の死因は癌であるらしいと、私は風邪気味で早々に帰宅し、主人一人残った。生活苦から、三人の息子を養てるのにたいへんだったろう。私は姉さんの死顔をみて心で泣いた。

停年の主人を抱え、通学児を育てるのに、夜通し、編物の仕立をし、パートに出かけそのうち、内職のあつせん業を営んで、やっと、子供の手をはなれ、長男は嫁を貰って、初孫の顔を見、はつと笑顔がもどってきたのに、これからゆつくり老後を楽しみ、一泊でもよい、旅行の一つでも思っていた矢先だったのに。

「世の中は酷やねッ」

私ははきすてるようにいうと、

「そうや、現世は何か狂つてんのや。まじめ人間が損をみる世の中や。おれ達兄弟は、運がないんやなア。今度のゴタゴタで、姉ちゃんは、まいってしててんなあ。体の弱い姉きだったが、こう早くいつてしまふとは思つてなかつた。つかつたやろうなア、姉き」

野辺の送りも無事に済んだ夜、しみじみと語りあった。

「親子はど年が違つたから、おとんぼの

おれの守をよくしてくれと、おやじがいつていたよ。風呂でよく洗つてくれたなア、ムツちり、大きなオツパイ、おれがさわると、コラツとおこつたもんよ。おれは、おつ母を思い出してたんやなア「そうやったねエ。いつもあんたお姉さんしとうてたもん」

「去年5月30日に休みとつてみんなしてよう遊びにいったもんや。えろう喜んでたやろ、あれが最後やったんやなア。おやじをようみてくれたおれいますゆうて、涙を流しとつた。それから、あんたはのんべやから、体に氣いつけよ、そしてなア、奥さん泣かしたらあかんよゆうて……なんかしらん、しよばんとしてた、あれが影がうすいゆうのかなア。それからおれなア、案じてたが、こんなに急な、人の生命というものは、よろいものよ。生死、裏表、今日は人ごと明日は我が身。こんなこと考えてると、世の中がいやになつてくるなア、でもよオ、明日に夢があるよつて人間みんな生きてゆけるンや、しめつぱくなつた、夢をもとう。さあ明日から、おれは頑張るぞ、ドンとみんなついてこいよ」

いつもの陽気な主人にもどつて私は安心をした。

3月4日夜おそくM氏がやつて来た。前に来た時にベタベタ書類に判コ押したり、印カン証明書いたりしたので、もうこれで済んだものと思つていたのに、な

んのこと。

「まだあかんのですわ……実は今夜寄せてもらったのは、権利証がないもんで、ヘッ……それで、済んまへんがこれに判コお願いします。」

「へーエな。なんで、こないだSさんもMさんも、権利証弁護士に預けたあるつて、それであれば、コピーして来たいわはつたやないの」

「ヘッ、なんせ古いもんでおまつしやろ、権利書あつちやいたり、こつちやいたりして紛失したんどつしやろなア」

「そうだとスね」

仮処分決定書には、相続の件と、予約にもとづく件との二つの件になつてあるらしい。被申請人の中にN氏という人物が加わつていた。

「このN氏という人は誰れ？」私は主人に聞いたが、

「おれは知らんよ」

「なんやけつたいな話しやね」

私はフに落ちないことばかり。

「……実はこの書類にもう一度、ご主人印カンお願い致します。」

Sさんが差し出す書類をみれば、連帯保証人がずらりと書いてあつて、長兄・次兄・三兄・妹の判コが押してあつた。主人は「なんかややこしいことになりそうだなア」

「へーエ、なんにもあんさんそうむつかしく考えてよろしんだス、お兄さん達は氣易うにご協力くださつてまつき、なア……奥さんあんさんからも、ご主人によろしゅうお願いします」

M氏とSさんは頭を畳にこすりつけん

ばかりだった。

「……そうやなア、あとあと面倒おこさんといて呉れたら、まアツ、あんたのことやから協力しまひよ」

「……エッ、そうだったか。済んまへん。よろしおます、これから先はこれ以上あんさん等にご迷惑おかけ致しまへんよつてに」

主人はどうとう連帯保証人印を押してしまつた。

M氏達は喜んで帰つていつた。私は

「なアあんた、大丈夫やろか」

「もうええがな、一人たてついてもしよない。兄き達も判押してもてるし」

「そやけど、法律（民法）の本に権利証は紛失したら再発行は出来んけど、それに変る保証書があれば立派に通用するねんてよ」

「そうか……」

「それにもうあんた、あれに判押してもたらもうなにもいわれへんで……これは一寸違つた話やけどな、お金借りるとする。そしたら保証人がいるやろ」

「そらそうや、そなんんわかつてるわい」

「まあ聞きなさいよ。月アの時もそうや、二人保証人がいることになつて。けど、ただの保証人やつたら、その借りた人が何かの事情で支払い不能となると、そして保証人やつたら、いま実は都合が悪

いから待つてほしい。もう一度借用人の所へいつて、相談もしましようといえるけど、この連帯保証人というものは、それがきかない。借用人の代理で借りたお金全額支払わねばならんのよ」

「その話とこの話は違つたわ、なんとかな

るやろ」

「なんとかなるてあんだ、M氏とSさん
帰るキワに私にどういったと思う」

「なんや、ゆうてみろ」

「まあ奥さん今夜はどうも有難うござい
ましたな。もう二、三回お宅へお伺いせ
んならんかも知れまへん、いわはった。

夜はどうもこつちも忙しいよって、昼間
お伺い致します。その節はよろしゅうに
って」

「ええッ、もう二、三回？ 弱ったなア、
仕事が出来て出張せんなんかもなア」

病院がよい

大阪府 土井 邦子

九月始め、風邪を引き、声が全く出な
くなった。微熱が続き、三人のチビをか
かえて、一カ月近く、医者通いも死にも
の狂いだ。夫はいえ、たまに早く帰
って腹の上にチビをのせて遊ばす位のも
のだ。母もあいにく結膜炎で頼めない。

安静にと言われても横になることも出来
ず、こじらせてしまい、蛋白尿もなおら
ない。薬、薬の連続で、一時は良くなっ
たが、薬をやめると又、尿がにごる。

とうとう医者から腎臓の検査をしてきな
さいと言われた。この医者は女医さんで
御主人が成人病センターの内科医である。
自分としては身体の方は、すっかり、シ
ヤンとしてきているし、しぶしぶ、子供
を母に頼んで森の宮へ出かけたのが10月
11日だった。

久し振りにいうより九年振り位の森の

「それかなアあんだ、私な、権利証が
もし出て来たらどないになりますって聞い
たったんよ」

「そしたらどないやて」

「この保証書よりも先に提出されれば、
こちらの負けですと」

「……何んやて」

「こつち、負けも損もあるかいな、やや
こしいことやね。おじいさんがおつたら、
早う解決ついたのでなア」

(つづく)

宮はこちやこちやしてお城も目につきに
くい。馬場町のあたりは教員会館のある
所で昔、練習場だったので、夜遅く、歌
いながら歩いた所だ。

聞いたとおり、待ち時間の長いこと、
その紹介された先生が、ペテランなのか、
指名の患者が特別多いのだ。簡単な診察
の後、「心配なさそうですが、念の為、
レントゲン撮って下さい」。先生の説明

によれば、わかりやすく言えば尿に膿の
出た状態で、それが膀胱の炎症によるも
のか、悪くすると腎臓自体が悪いかのど
ちらかだといった。私の場合、かかりつ
けの医者は前者の場合の処置をして感染
によるものだからと、下着の消毒も続け
ていたのです。「あの人は用心深いから」
とひとりごとの様な小声でつけ加えた。

さて、それからあちこちの検査室を回り

その度に尿をとりなさいという。そう簡
単に出せといわれて何度もあるものでは
ないのだ。果ては細菌学的ナントカは、
月・水・金しかしてないのであらためて
ときた。おまけにレントゲンも予約で十
月二十六日に決められた。

半月後、又母に頼んで一人で出かけた。
一つ検査をすませて、まだ一時迄、二時
間近くある。天気も良いし、大阪城公園
をぶらつく事にした。何年振りかの一人
歩きを十分もした頃、カメラ片手のジ
パンの青年が寄つてきて、「一緒にまわり
ませんか」言葉は少しなまりがあつて、
顔を少し赤らめて、二十一、三才と見て

とった。12時45分迄と決めて、博物館を
見て廻つたが、結婚以来、夫以外の男性
と歩くのは、はじめてで、少しウキウキ
したのは、かくせない。彼は私を25才位
のBGと見ているらしい。三人の子持ち
女と聞かせてやろうか。いやいや、勝手
に若く見てるんならいいやと、一時間程、
ハブニングを楽しんだ。お城へ行く彼と
別れて、成人病センターへ向う私の足は
もう、不安と、子供達への気掛りを、か
くせなく、せかせかしたのになつてい
た。

腎臓に石があるらしいという若い女性
と、おばあさんと私の三人が一緒に、裸
になつて、薄緑色の着物を着せられ、何
枚も撮る。テストの後、ぞう彫削を注射
して、すぐ台に登り、撮る時は、体中、
熱くなつていて、巧く息をとめる事が出
来ず、叱れながら終わった。

それから十日程、不安で何も手につか
ず、いらいらした日を送り、十一月六日

今度は下の二人を連れて結果を聞きに行
った。例によって二時間待ち、「どこも
異常なし。検査の全て異常なし」。

喜んで、あわてて戻ると、長女を預
つてくれた友人が誕生日のケーキを焼い
て待っていてくれた。長女満六才を心か
ら喜べる日になった。本当に健康つて、
幸せだ。それにしても今にして思えば、
夫の冷たかつたこと。自分は足に出来た
うおのめ一つに大騒ぎするくせに。
私も昨日迄のゆううつもふつとび、とた
んに、騒々しい日頃の私に戻つたから、
現金なものだ。

それにしても大病院の三時間待ちの三
分診察って本当なんですね。二度とあ
んな所へ行きたくないと思う。15センチ、
40kgのこの身体、これ以上細くなつては
たまりません。

皆さんも、くれぐれもお気を付け下さ
い。

表紙絵の言葉

平田 恵美子

この虎は、夫の年賀状を借りました。
下手でも、版画は、何ともいぬ味わい
を表わしてくれます。この六、七年、年
賀状の版画を楽しみに、年末の一カ月前
の日曜日を過ごしてしまします。いつも
「うまくいかぬ」とこぼしながらも、こ
としの作は、できあがりました。



ある青春 (24)

大阪市 津堂 健治

「時は金也」とは古来の諺だが現実には通用しない、時はあまりに貴重で無価値な金銭とは天地の開きがある。

動員に依って得た報酬は作業期間の精勤手当に加え、学校納入金、下宿代を差引いても、かなりの余剰金の手許に残る。(だから、実家からの仕送りは無用、親の経済的負担は無くなった訳だ)

父をはじめ親戚の叔父達の学生生活を折にふれ聞かされていたから、貧しく苦学し乍らもハリのある「学生時代」だった彼等を妬ましく思う、いや、そのような昔の学生をひきあいださずとも健治の数年前の先輩に未だ「自由」は残されていた、懐中無一物であろうと、師と語り友と謳い、ストーム・コンパ・デイス・カッションが可能だった、自己をみつめ孤独を満喫し、浪漫と理性に慰められたが、健治には望んで充たされる何一つも無い、些か懐具合が温かいだけでは皮肉である。

新年をはさみ解放は二旬(運命の時が与えてくれるなら)休暇の都度の感慨が今回はしんそ身にしみ最後の帰省に思えた。

×

×

実家、神戸での新春、昭和廿年の黎明だが、大阪を中心とした近畿管区も空襲の嵐は繁く、日本全土が戦場と化している。「お正月といつてもこれだけではネ」母は配給された心細い程数少ない餅を網に

のせ雑煮の仕度だ。

「わしい、から子供に充分やってくれ」

父は賀状の束に目をとおし乍らボツリと洩すが父の「餅好き」は有名で以前は春の節句にかゝる頃まで毎日のように食べていたからささりげない言葉の端に親の慈愛を感じる。

神棚に匂うように大きな鏡餅が飾られるが当世はやりのせともの造りだ、而も今年の元日の冷たさは身をきられる程、木炭の配給は絶え、炊事用ガスも止まりがちだから、飢えと寒さが人の心を更に暗くする、関西は、東京以上に逼迫していた。

加えてラヂヲは元日番組を寸断して敵機侵入の報を流している。

二日、健治が中学一年の弟と焼跡から集めた木片で風呂をたて、いた折、表戸が開き、医師の許に嫁いで一年の姉が戻ってきた。

「姉さん、おめでとう! お年玉は?」

開口一番、弟の催促するのに苦笑するが淋しげな顔だ。

「義兄さんと一緒やないの」

声をかけたが曖昧に首をふり、奥の間の父母に挨拶している。

姉夫婦の新居は義兄の勤務病院が京都だから、その郊外にあり、正月休みで実家を訪れるのに彼女独りなのは奇態だ。夫婦喧嘩でもしたのかと考えたが話を聞

くとそんな呑気なものでない。義兄に軍医として召集がか、つたのだ。それも昨日通知があつて彼等夫婦には大変な正月だ。入隊は八日で原籍の広島へ向う。

「で、義兄さんはおどしてるの」

「病院での整理よ、受持ち患者のひきつきやら、いろんな仕事があつて明後日でないとからだがあかないですって、それにすぐ入営でしょ、もう何が何だか判らない」

姉には突然の非常なショックで妊娠五ヶ月の身重だから、両親も案じ顔になる。京都の住居は小さなアパートなので、家具類の荷物は同じ土地に住む伯父の家に預けて貰い、義兄の帰還まで彼女を実家に置いておこうと母の意見だが父は腕ぐみした儘だし、姉はせつなさそうに俯して正月気分どころでない。

×

×

夕刻、初風呂が出来、父が湯殿に消えた。「湯かげんはどお?」と戸越しに尋ねると、「恰度良い、お前もすぐはいれ」と言う。乏しい燃料だから次々に這入らねばならぬ。

「また瘦せたようだな」

父は健治のからだを見る。

「以前とそお変らないよ、でも肥りたくても腹一杯喰べられないし……」

健治の食事は配給食量(学生だから甲券といつて、一番少ない量)を充分に感じる為、前もって井一杯の茶を飲む事になっているのだ。

「可哀いそうだな、わしが若い頃は一食に二合は平げたものだ」

父の青年期は苦学生だったが、それでも

三度くは真白な米の飯を食べた。健治の場合は日に一食がやっとで大豆高粱にふすまでしのぐ日さえある。

それは別として、父は医学部進入に就ての話をしなくなった。黙っているのでも背中を流し乍ら、日本の現況を思いつくま、話す。

三国同盟の崩壊、仏印戦線の劣勢、現内閣の不信感(松岡外交)、学徒動員のその後、等々……語り続けて父の表情を深めたがまるで石仏の様にしずまっている。

父が出ていくと替って弟が陽灼けた肌を見せた。

「兄さん、どうして日本は、こんな永い戦争するの、東条前首相もだけど、今の小磯首相だって人類の平和を叫んでるやろ、ヒトラーも、それにルーズヴェルト、トルーマン、チャアチルも同じ様に云っている、皆同じ立派な言葉をだし乍ら、どうして戦いを止さないのかしら」

十三才の弟の素朴な疑問だが重大な意味をもっている、誰かが欺瞞している、欺瞞され続けている国民こそ哀れだ。

世界の人類は、日本の国民は、こうした事実には彼は疑いを抱きだしている。夢多い少年の、人生に求めた美しい幻が少しづつ崩れゆくを感じてる。やがて彼も人間の頼りなさ、汚なさ、世間の醜さを悟ってゆくだろう、そして「国家」の存在をどのように納得してゆくかである。山佐大作はあの夜、「俺は未だに国家が不可解だ」と云ったが、彼は彼なりの解明をして、それ故のやりきれぬ言葉だったと思う。

四日、義兄は一晚泊ったが次の日は姉も同道して郷里へ出立する。母は姉の身を心配したが、彼女は入隊の見送りをすると云ってきかない、で一家は伴れだつて神戸駅で義兄夫婦を見送った。

「義兄さん、僕が先に征くと思つてました」

と、車窓に声をかければ

「健治君は運がありそうだ。卒業まで征かずに済むのでないか」

彼は強く健治の手を握ってくれた。

送別の後、急に海が見たくなり独り、メリケン波止場に足を運んだ。港は冬の汐風がきつく、人の姿も時折群をなして通る水兵だけで、突堤から見晴らせる視界は正月休みの貨物船が波にゆられて散在するばかり、あわただしい周囲のなかで波止場は奇妙に静かだった。

海風を一杯に吸う、この空気が、オゾンをつまんだ故の匂いだ、心が和み洗われてゆく。

と、その時、傍に足音がした。

「おい、そこで何をしておる」

振り向くと憲兵の腕章をした下士官が腰の軍刀をきらつかせ睨んでいる。

「海を見ていたのです」

背筋がゾクツとした、ずっと前から観察していたらしいのだがそれに気づかずもう少して口笛を吹こうとしたのだ、比の海を眺める時、癖になっている「ラ・マルセイユ」の歌を

「学生か、どこの学校だ」

「東京のN薬です」

「ふん……」

彼は無遠慮に服装を見つめた。

「写真機は持ってないだろうな」

「……!?」

「こゝは軍の管轄だ、用の無い者がうろうろしてはいかん」

命じる様に云うと歩み去ったが、殊更、軍刀をガチャ／＼鳴らす。

先刻までの淡い郷愁が潰されたのを感じて舌うちして、もう一度沖をみやると数隻の軍艦のかすんだ姿が見えた。

港を背にS町通りを行く、六甲、摩耶の山なみからトアロードと幼い日から親しんだカラフルな眺めは世界各国の領事館や商社の屋上に、それらの国旗は無く、街の合間に僅かにハアゲン・クロイツ旗がひらめき、日の丸がとり囲む。

通りは銀行・貿易商社ビルが密集しているが扉を閉ざした儘なのは、正月休みでなく殆んど敵性国の関係ビルだからである。

M町通りに出た。神戸のショッピング・センターだが舗道は淋しく冷めたい風が吹くばかりで、額に寶石をはめ闊歩していた印度人の印象を偽る。

帰宅しようとして四辻を曲つたら、道の奥に海軍士官が見えた。亦軍人か、何処の街でも息づいているのは彼等ばかり、海軍であろうと今や健治には嫌悪の情しかわかれぬ。

彼との距離が縮まったので横に避けようとしたが士官は斜めに近づいてくる。

「やっぱり貴様だ」

「誰……!?」

「津堂、俺だよ」

「浅田やないか」

サアジ紺の士官服は中学期の友、浅田茂だった。彼は一昨年暮の学徒出陣で吉江等と共に入隊したから、よもや再会出来るようとは考えもしない。

健治は中学一年と二年、彼と同級だったが入学した最初の日、担任教師が一期の級長を決めようと「小学校で級長だった者、手をあげて」と云うのに四、五名を除いて殆んどのがそうだったのに教師は呆れた様子だったが「では、名簿順だ」と、アの浅田が仮の級長となった。中一、一学期の級長はアテにならぬ見本みたいなもので他クラスの、級長少年は全員二学期で免職させられたが浅田は例外で二年も級長を続けた努力家で三年以後クラスは別だが常に成績は上位の筈だ。

「何年ぶりかな、君に会えるなんて」

「驚いたかい、実は特別休暇で年末から帰っていたのだ。今、貴様の家へ寄つてみた人居ないのでガツカリしてたのだ」

「ぢやアもう一度、引返してくれるか」

「いや、そお、ゆっくりは出来ないのだ」

と、腕時計を見て、

「でも、一時間は話せる、い、所を知つてから、一緒に行こう」

逆行するように歩いたが妙な具合で嫌悪すべき「軍人と肩を並べる恰好だ」

「先刻、港を散歩していたのだがネ」

「散歩かい、呑気なものだね」

「あ、けど憲兵にカツをいれられた」

憲兵との経緯を話すと彼は一々領づいてから、

「奴さん等は威張りたいのさ、俺も学

生の頃はよく海を見に行つたもの、尤も今なら大丈夫、何なら俺がガ・アドするから、もう一度行ってみるか」

逸川政雄が云つたように学生という人間は非生産的人種で戦事に対して何のプラスもないが、やがて軍隊の戦力に投入出来る貴重な待機人材なのだ。この国に学生が未だうろついている現状は或る意味で職業軍人には心強く感じる筈なのだ。こんな具合に告げると浅田は健治の角帽を見直した。

「君は未だ待機中やからな、羨ましいぜ」

「なに、俺も君ぐらいの秀才だったら、とうに兵隊さんだったさ」

「厭味だな、併し、こんな事なら、中学をもう一年やるのやつた」

彼は秀才Nや吉江同様に、四年修了で京都のS高文科に進学したから中学生生活は健治より一年短かい。何のでもなく行動出来た中学の生活は嬉しい思い出ばかりだと告げる。

「Bが戦死したの知ってるか」

「知らなかった」

Bは、クラスを後から数えて一番で卒業した、従つて進学を諦め家業を手伝ったが早々と応召し、去年の夏、大陸で散華したとか、

「あのキリちゃん、お、い、か、で良い奴だった」

「全くだ。けどピンちゃんの君も、あ、か、やつた」

浅田は常にクラスのトップにいたが、ガリ勉タイプでなく、明るい性格で学友の信頼を受けていた。

つづく

【お便り】

米子市 三好美恵子

初めてお便り致します。百号以来興味深くわいふを読ませていただいております。教育現場にいる一人として、百号の御指摘おそろしいようでした。いろいろ勉強にもなりますし、反省もさせられます。私達夫婦は、大学時代の同級生で、大学を出て結婚し、共に小学校教員をしております。昭和二十二・二十三年という戦後のベビーブームっ子です。いわゆる民主主義ということばの氾濫する中で育った私達ですが、当時の教育にも問題は多々あり、現在、批判・非難されますが、子どもを伸びく育てるといふ点に於いては、現在より、どんなにかまざっていたらうと思えることもあります。まだ教員としては、全くのひよっ子ですので、今後いろいろ勉強したいと思えます。時々寄稿させてもらいたく思っています。尚、私今、第二子の産前休暇に入っております。予定日は十二月二十五日です。楽しみにでくたまりません。先輩諸姉の勝ち取って下さったこの休暇がとてもありがたいです。

今日は、自己紹介のみ。
今後ともよろしくお願いします。

名簿お届け致します。今後、お便りや原稿をお送り下さる時に、年令等書添えて頂ければ誌上に載せますので、皆さんで備考欄を補充して下さい。

編集	後記
----	----

○新年おめでとう
ごさいいます。
好天に助けられて、
ちよっぴりだけ、
お正月気分も味わ
えたような気持ちで
す。

皆さん、お元気ですか。
ことしも、どうぞ、よろしく。

○沖繩の大城さんに、とてもお忙がしいのを承知の上で、「ぬかみそ教室」を続けてもらっていたのですが、多忙には勝てず、大城さんご自身も不本意としながらも、中断してしまいました。ところが、この度沖繩県労協を代表して、「訪ソ」という、私共には一寸考えられない体験をなさいました。そこで「ぬかみそ教室」は、あの時点で一応ピリオドを打って、今月号から数回にわけて、「訪ソ」の報告をお寄せ頂くことに致しました。ご期待下さい。

○「わいふ」誌面に出る会員の名前が、固定してしまうことを避ける為、編集部では、いろんなチエを出し合っているんですけど、特効策も見つからず現在に至っています。

最近、一つの試みとして、インタビュー（こんにちは。お元気ですか）を、やり始めたのですが、インタビューを受けて下さる人が決らず弱っています。「わいふ」という小さい仲間内のこととして、気軽に受けて下さる事を予想していましたので、いささか、その人選の難行には慌てているところで。その他、テーマに合いそうな方々への

ハガキ戦術？等もとったりで、小さい努力はしているつもりですが、うまく行きません。

さて、今年、新しく考え出しましたこと、それは、「リレー随筆」です。こちらから、最初に書いて頂く人だけは指名させて頂き、その後は、その月に書いて下さった方の指名でリレーして欲しいのです。今月号で会員名簿も皆さんのお手許に届いたと思いますので、リレーもスムーズに走るのでは、と思っているのですが……。

次々と新しい方のお名前が誌面を賑わして下さることを楽しみにして、待ちたいと思います。随筆に限らず、詩歌でも、創作でも、大論文でも、お便りでも、あなたのお好きなもので、とにかく誌面に顔を出して欲しいのです。「わいふ」のような小冊子の誌面が、いつもいつも常連の名ばかりで埋められているなんて、こんなつまらないことはないと思います。

皆さんだつてきつと、私と同じことを思っただけなのではないか。一人でも多くのいろんな人の書いたものに、お目にかかるたいものだ。今年、そんな「わいふ」になりたいと思います。皆さん如何ですか。（後藤記）

○明けましておめでとうございます。一夜あければ、イヤな事は皆んなどこかへ……なんて事にはならず、おめでたかったのは、お天気とテレビだけ。今年もたいへんな年になりそうですが、お互いガンバリましょう。

○初夢で、私がわいふの原稿にうずもっている夢をみましたので、今年のわいふも「めでたし」と思うものの、紙不足がちよっぴり心配です。

新しい型式の「わいふ」いかがですか。原稿が一度に集まりませんし、素人のかなしさ、割付がうまくいかず、字がつまりすぎて読みづらい出来上りになりました。

次回からはもう少し工夫を加え、少しでもスマートにしていきたいと思えます。

○津堂さんの「ある青春」、ページ数の都合で、勝手ですが少し次号にまわさせて頂きました。どうぞご諒承下さい。○先月号から、神戸の平田恵美子さんに表紙絵をお願いしています。先月の柿、今月のトウ、原画をお見せ出来ないのが残念です。次回もお楽しみに。（鈴木記）

毎月一回十日発行

原稿・誌代の送付先

〒665 宝塚市仁川宮西町1の72

「わいふ編集部」

発行人 高木由利子

発行所 わいふ発行所

振替口座番号 神戸19515

印刷所 百合亭植印刷有限公司

誌代 一部 百円（送料25円）

原稿切 毎月二十五日

（以降翌月まわし）